

平成 25 年度仙台市図書館事業報告書

(仙台市図書館振興計画による事業の実施状況及び効果・課題等)

平成 26 年 10 月

教育局市民図書館

目 次

○平成 25 年度仙台市図書館運営方針	1
○平成 25 年度仙台市図書館事業報告	
方向性1 地域や市民に役立つ図書館	
(1)課題解決に取り組む市民を応援します	2
【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】	
【レファレンス機能の充実】	
【課題解決型情報支援サービスの充実】	
【地域の専門機関との連携】	
(2)情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます	5
【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】	
【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】	
【様々なネットワークへの参加・連携】	
(3)地域の創造性の継承・発展に取り組みます	7
【地域情報の蓄積・継承・発信】	
【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】	
(4)「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます	9
【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】	
方向性2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館	
(1)誰もが使いやすい図書館サービスをめざします	10
【高齢者サービスの充実】	
【障害のある人へのサービスの充実】	
【外国人が使いやすいサービスの充実】	
(2)どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします	12
【市民センターでの図書サービスの拡充】	
【移動図書館サービスの再編・整理】	

方向性3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館

- (1) 子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します 13
 - 【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】
 - 【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】
- (2) 障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します 15
 - 【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】
 - 【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】
- (3) 子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます 17
 - 【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】
 - 【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】
- (4) 子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます 19
 - 【学校との連携の強化、協働による事業の充実】
 - 【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】
 - 【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

方向性4 自らの変革を進める図書館

- (1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います 22
 - 【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】
- (2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます 23
 - 【図書館サービスの広報、図書館像の共有】
 - 【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】
- (3) 図書館資源を適正に配分し有効に活用します 25
 - 【システムやサービスのあり方の見直し】
 - 【ICタグの計画的な導入】
- (4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います 26
 - 【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】
- (5) 図書館職員の資質の向上に努めます 27
 - 【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】
 - 【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- 用語解説 28

平成25年度仙台市図書館運営方針

図書館は、資料の収集・保存・提供を通して、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設であり、「知る権利」や「学ぶ権利」を保障し、生涯学習の機会を提供する施設として重要な役割を果たしている。

近年、少子高齢化、国際化、情報化の急激な進展に伴い、図書館を取り巻く環境は大きく変化し、図書館に対する市民のニーズも多様化してきている。

こうした状況のもと、平成24年3月にこれからの本市図書館に求められる図書館像、振興方策を盛り込んだ「仙台市図書館振興計画」を策定した。本計画は、平成24年度から28年度までの5年間を計画期間としている。

さらに、平成24年12月に「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正され、新たに「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示された。

平成25年度は、「仙台市図書館振興計画」2年目の年であり、本格的に本計画に基づく事業を推進、展開していく年度となる。「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」も踏まえながら、本計画の具体的な事業計画となる「平成25年度仙台市図書館事業計画」に基づく施策を確実に実施していく。

仙台市図書館振興計画において図書館がめざす4つの方向性は次のとおりである。

- 1 地域や市民に役立つ図書館
- 2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館
- 3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館
- 4 自らの変革を進める図書館

施策 (1)課題解決に取り組む市民を応援します

平成25年度事業概要

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・選定会議・調整会議の開催により資料の充実を図る。
- ・図書館資料(一般書、児童書、AV資料)を紹介する刊行物を発行する。
- ・図書館利用案内を配布する。
- ・本のテーマ別展示を行う。
- ・庁内外関係機関等を通し東日本大震災関連資料や情報の収集と閲覧・貸出を行う。
- ・3.11震災文庫※及び各館震災コーナーを継続的に設置する。
- ・「としょかん・メディアテークフェスティバル」で震災関連資料の展示・広報を行う。

【レファレンス※機能の充実】

- ・レファレンス担当者会議を開催する。
- ・庁内外関係機関を通じた専門分野に関するレファレンス資料や情報の収集を行う。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステム※に参加する。
- ・3.11震災文庫資料を独立カテゴリーにしてホームページへ掲載する。
- ・収集・保存した震災関連資料の整理とデータの蓄積を行う。
- ・震災関連レファレンスサービスを実施する。
- ・レファレンスの活性化を目的としたレファレンス利用ガイドを作成・配布する。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・図書館ホームページの内容充実を図る。

【地域の専門機関との連携】

- ・専門機関等と連携した情報展示コーナーを設置し、閲覧に供する。
- ・地域の専門機関と連携した市民向け講座・講演会、相談会を実施する。
- ・在仙の学術機関、民間企業、行政機関等に係る情報提供や相談窓口の紹介を行う。

平成25年度実施状況

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・集中選書会議等により調整を行い、資料を幅広く収集した。

	平成24年度	平成25年度	備考
資料受入数(冊・点)	76,096	76,653	一般書・児童書・視聴覚資料・雑誌・新聞
蔵書数(冊・点)	1,905,077	1,941,966	一般書・児童書・視聴覚資料
利用者数(人)	1,288,353	1,310,211	団体・文庫を除く
貸出数(冊・点)	4,051,290	4,109,186	団体・文庫を除く

- ・図書案内等の刊行物を定期的に発行した。
子ども向け図書案内 14種類、一般向け図書案内 7種類、AV資料案内 5種類、図書館利用案内等
- ・図書館全館で、本のテーマ別展示を毎月実施した。また、「課題解決や暮らしに役立つ本」というコーナーを設置し関連資料の充実を図った。
- ・3.11震災文庫及び各館震災コーナーを継続的に設置するとともに資料の充実を図った。
平成25年度末現在3.11震災文庫資料収集数 4,309点(平成24年度 2,823点)
- ・「としょかん・メディアテークフェスティバル」で3.11震災文庫資料をメディアテーク1階フロアに特別展示し市民への周知を図った。(平成26年3月1日～2日)

平成25年度実施状況(続き)

【レファレンス機能の充実】

- レファレンス担当者会議の開催や専門機関の実施する研修会への参加など、職員のレファレンス技能の向上に取り組んだ。
平成25年度レファレンス件数 73,277件(平成24年度 68,134件)
- 博物館等の社会教育施設や仙台商工会議所等の機関を通して、専門分野に関するレファレンスのための資料や情報の収集を行った。
- 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称ひなぎく)と連携し、3.11震災文庫の図書等の書誌情報が「ひなぎく」からも検索できるようにした。
- 3.11震災文庫資料を独立カテゴリーにしてホームページへ掲載した。
- 震災関連資料の所蔵案内や震災関連レファレンスサービスを継続して実施した。
- 市民のレファレンス利用促進のため、レファレンス利用ガイドの作成・配布やレファレンス事例集「本の道案内」を発行した。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- 図書館ホームページに行事、新着資料、貸出ランキング等、図書館関連情報を掲載し、随時更新を行った。
- 図書館ホームページに関連情報へのリンク先を追加した。

【地域の専門機関との連携】

- 日本政策金融公庫と共催でビジネス書の展示及び創業支援セミナーを実施した。(泉図書館)
- 有限会社ふじや千舟と連携して講演会及びパネル展示を実施した。(広瀬図書館)
- 仙台市天文台と連携して「子ども天文教室」を実施した。(広瀬図書館)
- 仙台市歴史民俗資料館と連携して正月飾りを紹介する事業を実施した。(榴岡図書館)

実施効果等

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- 様々な課題解決に役立つ資料の収集を行ったことで、情報支援サービスの充実につながった。
- ジャンル別に掲載した新着資料案内を発行したことで、利用者が新しい情報を得やすくなった。
- 震災関連資料の収集に努めたことで、3.11震災文庫の充実につながった。

【レファレンス機能の充実】

- レファレンス利用ガイドの作成と配布、レファレンス事例集の発行を通して図書館のレファレンス業務を市民に広報することができた。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- 図書館ホームページに行事や各種情報を工夫して掲載することで、提供情報の充実が図られた。
- 図書館ホームページに関連情報へのリンク先を追加したことで提供情報の充実につながった。

【地域の専門機関との連携】

- 地域の専門機関や企業との連携による講演会や資料展示等を通して、市民に対して多様な情報や学習機会を提供するとともに地域の魅力を広く発信できた。

課題・改善策等

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・震災に関する資料の整理を進め、集積された情報の効果的な活用に努める。
- ・震災に関する資料の収集においては、資料の散逸も懸念されることから情報収集や作成者に送付を依頼するなど積極的な収集に努める。

【レファレンス機能の充実】

- ・レファレンス利用ガイド等を活用してレファレンスサービスの利用促進に努めるとともに、利用者向けデータベースの充実等、レファレンスサービスの一層の充実を図る。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・ホームページの関連リンクの拡大など、掲載情報を充実していく。

【地域の専門機関との連携】

- ・地域の専門機関に関する活動内容の情報収集や紹介などに加えて、専門機関と連携した互いの強みを生かせる取り組みを行っていく。

仙台市図書館協議会の意見

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・課題解決に役立つ資料や情報の収集にあたっては、各図書館で設置している特設コーナーの利用状況やレファレンスの状況を勘案しながら幅広く行っていただきたい。
- ・東日本大震災に関する出版物の収集に努め、引き続き3.11震災文庫の充実を図っていただきたい。

【地域の専門機関との連携】

- ・地域の専門機関との連携は、地域性を活かした特色ある図書館づくりにつながるため、各図書館においても独自に工夫して企画実施していただきたい。

施策 (2) 情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます

平成25年度事業概要

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベース※の計画的拡充を図る。
- ・図書館内のインターネット環境の整備に向けた調査・検討を行う。
- ・電子資料閲覧用機器を設置する。
- ・電子書籍閲覧・貸出を実施している他都市の調査を行う。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービス※の提供】

- ・ホームページにレファレンス事例集を掲載する。
- ・ホームページにレファレンス利用ガイドを掲載する。
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベース※への事例の登録を行う。
- ・市民のためのデータベース等情報検索・活用講座開催の検討を行う。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク※事業フォーラム、研修会等へ参加する。
- ・国立情報学研究所による目録所在情報サービス※への参加の検討を行う。

平成25年度実施状況

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベースサービスを継続して提供した。
平成25年度利用者向け商用データベース 6種類(平成24年度 5種類)
利用件数 683件(平成24年度 468件)

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

- ・ホームページにレファレンス利用ガイドを掲載した。
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例登録を行った。
平成25年度事例登録件数 46件(平成24年度 0件)
- ・市民のためのデータベース活用講座を開催した。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク研修会へ参加した。
- ・国立情報学研究所による目録所在情報サービスへの参加について、得られる効果と発生する費用負担について検討を行った。

実施効果等

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベースサービスの継続実施により、利用者に最新の情報を提供できた。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

- ・ホームページにレファレンス利用ガイドを掲載し、市民にレファレンスサービスの周知を図った。
- ・データベース活用講座を開催し、市民に図書館の多様なサービスを案内した。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク研修会への参加により、公共図書館間での書誌情報交換の活性化へ向けた今後の取り組みについて理解を深めた。

課題・改善策等

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

・商用データベースの利用促進を図るため、市民向け講座等を開催する。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

・レファレンスサービスについて、レファレンス事例集をホームページに掲載するなど市民に継続して周知し利用促進に努める。

仙台市図書館協議会の意見

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】

・商用データベースは情報を早く的確に得るのに有用であるため、市民向け講座等の開催を通して利便性を広報し、市民の活用を促進していただきたい。

施策 (3)地域の創造性の継承・発展に取り組みます

平成25年度事業概要

【地域情報の蓄積・継承・発信】

・多様な地域資料(DVD等も含む)を収集する。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

・仙台に関する情報の収集・集積、展示、ホームページによる発信を行う。
 ・仙台に関する資料や情報のリスト、パスファインダー※を作成する。

平成25年度実施状況

【地域情報の蓄積・継承・発信】

・多様な地域資料(DVD等も含む)の収集に努めた。
 平成25年度郷土資料受入数 2,791冊(平成24年度 3,208冊)
 ・デジタル化された和書・漢籍・古地図について、館内で閲覧できるようシステムの構築を行った。(市民図書館)
 ・区民協働まちづくり事業で行っている市民による「風土記」作成作業を支援するため、図書館資料の紹介を行った。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

・仙台に関する情報の収集に努めた。
 平成25年度資料受入数 544点(平成24年度 419点)
 ・パスファインダーの作成のため、仙台に関するテーマを決め資料収集を行った。
 ・泉図書館に「ベガルタ仙台展示コーナー」を継続して開設し、関連資料を展示した。
 ・宮城野図書館に「東北楽天ゴールデンイーグルス展示コーナー」を開設し、関連資料を展示した。
 ・太白図書館に「仙台89ERS展示コーナー」を開設し、関連資料を展示した。
 ・各図書館に「仙台・宮城ディスティネーションキャンペーン展示コーナー」を開設し、各種観光パンフレット等を置き情報提供を行った。
 ・太白図書館に「秋保情報展示コーナー」を開設し、秋保地区各施設のパンフレット等を置き情報提供を行った。

実施効果等

【地域情報の蓄積・継承・発信】

・将来的に劣化する可能性のある和漢書などの原書をデジタル化することにより、利用者に提供する手段を増やすことができた。
 ・収集した地域情報を提供することにより、市民の地域づくりに資する「風土記」作成事業に役立てることができた。

【市民とともに進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

・一般に流通せず、入手が難しい地元の行政資料やミニコミ誌等を収集・整理し、仙台に関する情報として提供することができた。
 ・「ベガルタ仙台展示コーナー」、「東北楽天ゴールデンイーグルス展示コーナー」、「仙台89ERS展示コーナー」を開設したことで、関連資料の貸出増加につながった。
 ・キャンペーン展示コーナー等の設置により利用者に種々の情報を提供でき、また関連資料の貸出増加にもつながった。

課題・改善策等

【地域情報の蓄積・継承・発信】

・和漢書等がデジタル化され閲覧しやすくなった旨の広報や、利便性を考慮した閲覧用機器の設置等を進め、利用者に、より活用してもらうための環境を整えていく。
 ・地域情報を継続して収集するとともに、市民が利用しやすいように整理し、利用案内も工夫していく。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

・収集した仙台に関する情報をホームページや印刷物等で積極的に案内していく。
 ・パスファインダーの作成により、利用者の情報検索利便性の向上と的確な情報の発信に努めていく。

仙台市図書館協議会の意見

【地域情報の蓄積・継承・発信】

・所蔵している郷土資料に関する情報について、市民に広く発信し郷土資料の活用を図っていただきたい。

【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】

・図書館は、観光で市内を訪れる人に対する情報発信の役割もあるので、観光情報や仙台市についての情報提供を工夫し積極的に行っていただきたい。

方向性 1 地域や市民に役立つ図書館

施策 (4)「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます

平成25年度事業概要

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・大学図書館との相互貸借、複写等連携の実現について検討する。

平成25年度実施状況

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・学都仙台OPAC※に、継続して参加した。
平成25年度市内大学図書館への紹介状発行件数 15件（平成24年度 17件）
- ・宮城教育大学附属図書館と連携事業の実施についての協議を行った。また、相互貸借についても想定される相互利用の形態等について協議を行った。

実施効果等

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・学都仙台OPACに参加する大学・短大及び宮城県図書館、仙台市図書館等の蔵書目録を同時に検索できるため、利用者の利便性が向上した。

課題・改善策等

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・大学図書館との相互貸借、複写等による連携の実現について引き続き検討する。
- ・大学図書館との連携を強化するため、連携事業の実施やレフェラルサービス※の充実等について引き続き協議を進めていく。

仙台市図書館協議会の意見

【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

- ・市内大学図書館との連携については、試行的に行っている事業を検証しながら連携促進を図っていただきたい。

施策 (1)誰もが使いやすい図書館サービスをめざします

平成25年度事業概要

【高齢者サービスの充実】

- ・大活字本※資料の充実を図る。
- ・高齢者にとって関心の高い分野をテーマとした資料の展示、行事を実施する。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・ホームページ等を通した障害者サービスの積極的な広報を行う。
- ・デイジー(DAISY)資料※作成ボランティア講座を開催する。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・外国語資料の充実を図る。
- ・外国人向け図書館配布物等の充実を図る。

平成25年度実施状況

【高齢者サービスの充実】

- ・大活字文化普及協会※への会員登録を継続して行い、効率的な資料収集を行った。
- ・選定会議・調整会議等で調整のうえ、大活字本資料の充実を図った。
平成25年度大活字本受入数 218冊(平成24年度 267冊)
- ・高齢者にとって関心の高い分野をテーマとした資料展示や行事を実施した。
講演会「戊辰戦争と仙台藩」を開催し、関連資料の展示を行った。(泉図書館)
シニア向け「生き生き家庭応援コーナー」を設置し、関連資料の展示を行った。(若林図書館)
ガンと介護を中心とする医療に関する資料展示を行った。(太白図書館)
落語に古典童話という題材を盛り込んだ「ひろせ寄席～落語で聞くアンデルセンの世界～」を開催した。
(広瀬図書館)
- ・資料を探しやすくするため、案内表示の拡大や展示コーナーの変更を行った。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・ホームページや市政だより、ミニコミ誌への掲載や地域FM放送への主演を通して、障害者サービスの広報を実施した。
- ・拡大読書器を継続して設置した。(全図書館)
- ・音声読み上げ機を継続して設置し、また、設置場所の館内案内表示を増やした。(宮城野図書館)
- ・視覚障害のある人への対面朗読サービスを実施した。
平成25年度対面朗読件数 97回(平成24年度 87回)
※参考 市民図書館はメディアテークで実施 平成25年度 315回(平成24年度 354回)
- ・図書館利用案内のデイジー(DAISY)版を各図書館に配置した。
- ・デイジー資料制作ボランティア講座を実施したほか、利用者向けのデイジー資料の使い方講座を実施した。
(宮城野図書館)
- ・心身の障害等により来館が困難な利用者に対し、図書館資料の郵送貸出を行った。
平成25年度郵送貸出延利用者数 3,172人(平成24年度 2,983人)
平成25年度郵送貸出数 7,646冊・点(平成24年度 6,991冊・点)

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・選定会議等で調整のうえ外国語資料の充実を図った。
平成25年度外国語資料受入冊数 78冊(平成24年度 36冊)
- ・外国語資料の案内をカウンターと書架に英文で表記した。(泉図書館)

実施効果等

【高齢者サービスの充実】

- ・大活字本資料の充実や関心の高いテーマの資料展示を行うことにより、高齢者サービスの充実につながった。
- ・高齢者が参加しやすい行事を開催することにより、生涯学習機会や図書館利用の拡大につながった。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・さまざまな広報媒体を使って広報したことによりサービスの認知度が向上した。
- ・拡大読書器や音声読み上げ機の継続設置により、障害のある人でも利用しやすい環境づくりができた。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・外国語資料の案内をカウンターと書架に英文で表記し、さらに著者名や書かれてある言語などの説明文をつけたことにより外国人が利用しやすい環境づくりができた。

課題・改善策等

【高齢者サービスの充実】

- ・高齢者に関心の高い資料や大活字本資料の更なる充実を図る。
- ・シニアコーナーや相談コーナーの設置場所を工夫し、利用者ニーズに対応した情報提供を行う。
- ・高齢者に関心の高い行事を企画・実施し、生涯学習の場の提供を行う。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・多様な広報媒体を用いて、障害者サービスの広報に努め周知を図る。
- ・音声読み上げ機等の設置を継続するとともに利用者への一層の周知を図る。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・外国人向け館内サインの表示等についてさらに検討・実施する。
- ・外国語資料及び外国人向け図書館配布物の充実を図る。

仙台市図書館協議会の意見

【高齢者サービスの充実】

- ・高齢者が参加しやすい講座や講演会などを継続して開催し、高齢者の生涯学習の機会の拡大や図書館利用の増加につなげていただきたい。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・新しいサービスを考案するなど障害のある人へのサービスの充実に努めている。多様な広報媒体を用いて障害者サービスの広報に努め周知を図っていただきたい。

施策 (2)どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします

平成25年度事業概要

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・中央市民センター、仙台ひと・まち交流財団と市民センターでの図書サービスのあり方に係る協議を行う。
- ・団体貸出等既存制度の活用による市民センター図書室への支援強化を行う。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・利用状況や仮設住宅・復興住宅の整備状況等を勘案した巡回コース再編を検討する。

平成25年度実施状況

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・中央市民センター及び公益財団法人仙台ひと・まち交流財団と、市民センターでの図書サービスの拡充と図書館の既存制度の活用について協議を行った。
- ・既存制度の活用による市民センター図書室への支援として、図書館の除籍資料150冊を譲渡した。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・利用状況を勘案し巡回コースの組み替えと時間の調整を行った。
- ・利用状況や仮設住宅の入居状況、復興住宅の整備状況等を勘案し、巡回コース再編の検討を行い、平成26年度から2つの駐車場を廃止し新たに2つの駐車場を設置することとした。
 廃止2ヶ所→三本塚(若林区三本塚)、七郷中央仮設
 新設2ヶ所→荒井東復興公営住宅、岩切分台(宮城野区岩切分台一丁目)

実施効果等

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・市民センターでの図書サービスのあり方について関係機関と協議した結果、市民センター図書室に図書館除籍本を譲渡することができ、市民センターの図書資料の充実につながった。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・移動図書館サービスの巡回コースを再編し仮設住宅駐車場を含めたことで、被災者の生活に役立つ情報の提供につながっている。

課題・改善策等

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・既存のサービスの在り方を含めて、今後さらに効果的にサービス提供を行う方策について検討する。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・移動図書館車両の老朽化が進んでいる。
- ・移動図書館サービスの巡回コースについては、今後とも利用状況や仮設住宅の入居状況等を勘案し、検討を行っていく。
- ・市民センターの活用を含めた館外サービスのあり方について、関係機関と協議していく。

仙台市図書館協議会の意見

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・老朽化が進んでいる移動図書館車については、今後の移動図書館サービスの展望を踏まえて検討していただきたい。

施策 (1)子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します

平成25年度事業概要

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会等を実施する。
- ・乳幼児及び保護者向け行事を実施する。
- ・両親教室等の機会を活用した啓発事業実施について関連部署との協議・検討を行う。
- ・乳幼児の保護者等が訪れる施設や小児科・産婦人科等の医療機関等にあかちゃん絵本に関するパンフレット等を配布するとともに、配布先の拡大を図る。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・図書館で活動する中高生選書アドバイザーによるおすすめの本の紹介などの情報発信を行う。
- ・図書館ホームページ内に設置する中高生向けコンテンツの内容検討を行う。
- ・図書館ホームページ内への中高生が書いた本の感想等掲載の検討を行う。
- ・小学校新1年生向け図書館利用案内を作成・配布する。
- ・中学校、高等学校新1年生向け図書館利用案内の内容を検討する。

平成25年度実施状況

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会を実施した。
平成25年度実施回数 115回(平成24年度 73回) 参加者数 2,840人(平成24年度 2,279人)
- ・幼児向けおはなし会(幼児から小学校低学年対象)を実施した。
平成25年度実施回数 393回(平成24年度 378回) 参加者数 6,316人(平成24年度 5,873人)
- ・親子で楽しむわらべうたなどの乳幼児及び保護者向け行事を実施した。
平成25年度実施回数 24回(平成24年度 18回) 参加者数 551人(平成24年度 349人)
- ・乳児健診が行われる各区の保健福祉センターや、乳幼児と保護者等が訪れる各区の子育て支援施設や児童館等で小冊子「あかちゃん絵本」を配布した。
- ・各図書館で行事開催時に、小冊子「あかちゃん絵本」を配布したり、掲載本のコーナーを設置した。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・中高生のボランティア(選書アドバイザー、選書サポーター)による中高生向けの本の選書やブックリストの作成を通して、中高生に対するおすすめ本の紹介などの情報発信を行った。(広瀬図書館)(榴岡図書館)
- ・中高生向けの図書資料や行事を紹介する「YA通信」※を発行し、広く情報を発信した。(泉図書館子供図書室)
- ・小学校新1年生向け図書館利用案内「としょかんへいこう!」を作成し配布した。
配布校数 135校 配布枚数 10,530枚
- ・平成26年度の作成・配布に向け、中学校新1年生向けの図書館利用案内について検討を行った。
- ・小学生向けのおはなし会や工作教室、ブックトーク※、一日図書館員、映画会、中学生向けのおすすめ本の紹介や中高生向けビブリオバトル※の開催等、様々な読書支援サービスを行った。

実施効果等

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会や乳幼児の保護者向け行事の開催を通して、絵本やわらべうたによる語りかけの重要性を伝えることができた。
- ・「あかちゃん絵本」のパンフレット配布等により、絵本を介した親子のふれあいに資することができた。
- ・おはなし会の回数を増やし、新たに日曜日にも設定することで、幼児やその親が参加できる機会を増やすことができた。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・小学校新1年生向け図書館利用案内を配布したことで図書館を訪れる児童が増え、児童の図書館利用につながった。
- ・中高生の選書アドバイザーや選書サポーターによるおすすめの本の紹介冊子の作成・配布により、中高生が図書館をより身近に感じる事ができた。

課題・改善策等

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会では、参加希望者が多く会場に入れないこともあるため、多くの希望者が参加できるように内容や回数等を検討する。
- ・乳幼児の保護者向けに、絵本の効用などを解説した冊子を作成し、情報提供を積極的に行う。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・小学校新1年生向け図書館利用案内に続いて、中学生や高校生向けの利用案内についても作成・配布し、中高生の読書活動推進を図っていく。

仙台市図書館協議会の意見

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・年齢に応じた読書支援サービスの拡大にあたっては、図書館で子供たちが体験したり図書館職員と交流できる場を創造するということも考慮し実施していただきたい。

施策 (2)障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します

平成25年度事業概要

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・触る絵本※や点字付き絵本、LLブック※等、障害のある子どもたちの読書活動の推進に向けた資料の収集を行う。
- ・触る絵本等の関連資料所蔵リストの作成と、ホームページ等での公開を行う。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)※利用のための機器を設置し、利用に供する。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・特別支援学校等のニーズにあった資料の収集、貸出用資料の充実を図る。
- ・市内特別支援学校(7校)の他、市立小・中学校の特別支援学級への案内と資料提供を行う。
- ・利用校に対するアンケート調査の実施及び分析・改善を行う。

平成25年度実施状況

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・触る絵本や点字付き絵本、LLブック等、障害のある子どもたちの読書活動の推進に向けた資料の収集に努めた。
- ・泉図書館子供図書室に、触る絵本等の資料約260冊を集めたコーナーを設置した。
- ・触る絵本等の資料所蔵リストを作成し、各館で配布した。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)利用のための機器を継続して設置し、利用に供した。(泉図書館)
平成25年度利用回数 2回(平成24年度 0回) 利用者数 2人(平成24年 0人)

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・特別支援学級からの要望が多かった、音の出る絵本、触る絵本、大型絵本を中心に収集を行い、貸出用資料の充実を図った。
- ・市内特別支援学校と市立小・中学校の特別支援学級へ貸出サービスの案内と資料提供を行った。
特別支援学校等貸出サービス利用校 2校(平成24年度 9校)
- ・利用校2校に対し、アンケート調査を実施した。
- ・学校連携事業説明会でマルチメディアデイジー(DAISY)の利用促進についてPRを行った。

実施効果等

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・特別支援学級からの要望等に対応するなど、利用者のニーズに即した資料の充実につながった。
- ・泉図書館子供図書室に、障害のある子どもたちの読書を助ける触る絵本等の資料を集めたコーナーを設置したことにより、資料の貸出が増加した。
- ・触る絵本等の関連資料所蔵リストを作成し配布することで、利用者に広く情報を提供できた。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・貸出した特別支援学校等専用資料について、アンケート調査を行ったところ特に音の出る絵本等が好評だったことが確認できた。

課題・改善策等

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・障害のある子どもたちの読書活動を助ける資料の充実と情報の提供に努める。
- ・触る絵本等の関連資料所蔵リストについてホームページ等を活用した情報の提供を行う。
- ・マルチメディアデイジー(DAISY)の利用促進に向けた研修会の実施と研修会等を通じた周知・広報を行う。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・利用校のニーズに基づいた資料の選定を行い、市内特別支援学校等への貸出資料の充実に努める。
- ・特別支援学校等への貸出サービスを関係者に周知するため、チラシの作成配布など広報に努める。

仙台市図書館協議会の意見

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・障害のある子どもたちの読書活動を助ける資料の充実と手話を使ったおはなし会の実施など障害のある子どもたち向けのサービスの検討をしていただきたい。

施策 (3)子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます

平成25年度事業概要

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック※」や大型絵本等、おはなし会や行事等活動に必要な貸出用資料の充実を図る。
- ・保育所等に対する除籍済資料の無償譲渡による資料の提供を行う。
- ・児童館等職員、ボランティアからの資料相談等に積極的に対応する。
- ・児童館等主催の子どもの読書に関する講座等に図書館職員を派遣する。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

- ・中高生による同世代に向けた読書情報発信を試行する。
- ・他都市等における中高生による図書館サポーター実施状況を調査する。
- ・子育て支援施設のびすく泉中央(4F中高生プラザ)の活動の実態を調査する。
- ・図書館サポーター育成に向けた中高生への意識調査を行う。

平成25年度実施状況

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック」の貸出と資料の充実を図った。
平成25年度追加作成パック数 4種類24パック 平成25年度末現在パック数 56種類130パック
平成25年度貸出件数(保育所、幼稚園、児童館) 119件(平成24年度 85件)
- ・「子ども読書支援パック」に、保育所等関係施設から要望の多かった季節の行事に関する資料を取り入れた。
- ・「子ども読書支援パック」を活用してもらうため、関係施設に文書で案内するとともに、ホームページへの掲載等により周知を図った。
- ・保育所等に対して、除籍済資料の無償譲渡による資料の提供を行った。
平成25年度提供数 14件 721冊(平成24年度 8件 1,113冊)
- ・保育所等職員、ボランティアからの相談等に対して、資料の紹介に加え、読み聞かせの技術的アドバイスを行うなど積極的に対応した。
- ・児童館等主催の子どもの読書に関する講座等への図書館職員の派遣を行った。
平成25年度派遣件数 9件 (平成24年度 10件)

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

- ・子育て支援施設のびすく泉中央(4F中高生プラザ)と泉図書館ヤングアダルト※コーナーに、中高生のおすすめ図書投稿ボックスを継続設置し、収集した情報を泉図書館ヤングアダルトコーナーに掲示して同世代に向けた情報を提供した。新たに、宮城野図書館においても、中高生による同世代に向けた読書情報の発信を行った。
平成25年度掲示件数 48件(平成24年度 61件)
- ・中高生のボランティア活動の場として、図書館での返架作業等の体験会と懇談会を実施した。(若林図書館)
- ・中高生による図書館サポーターの育成に向けて、他都市等における活動情報の収集を行った。

実施効果等

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック」の種類が充実により、関連施設への貸出が促進され、図書館への来館が困難な子どもへも身近な施設を通して本とふれあう機会を提供できた。
- ・保育所等職員、ボランティアからの相談等に対して、読み聞かせの技術的アドバイスを行うことにより施設の読書活動の支援を行うことができた。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

- ・中高生のおすすめ図書投稿ボックスを用いた本の紹介を実施する図書館が増えたことで、ヤングアダルトコーナーをアピールする機会が広がった。
- ・中高生の図書館ボランティア体験実施により、中高生の読書意欲の向上を図る方策が広がった。

課題・改善策等

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

・「子ども読書支援パック」の貸出事業については、対象施設への文書による案内やホームページへの掲載、ポスター掲示等で周知に努めているが、認知度が不足していることから、今後も、事業内容がより伝わりやすい案内文書を作成するなどして、利用促進を図っていく。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

・市内の中学校に配布している「YA通信」等で、おすすめ図書の投稿の呼びかけや掲示の周知を図りながら、図書館サポーターの育成に向けて、中高生の関心を高める工夫を行っていく。

仙台市図書館協議会の意見

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】

・地域の子どもに読み聞かせを行う中高生によるボランティアの育成について検討していただきたい。

施策 (4)子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます

平成25年度事業概要

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・パッケージ貸出※、学校貸出※資料の充実等により貸出強化を図る。
- ・公共図書館利用学習への支援を行う。
- ・子どもの本の案内等の図書館発行物による学校への情報提供を行う。
- ・市立小学校等に対する除籍済資料の無償譲渡を行う。
- ・学校連携事業の利用状況調査及びアンケートの実施と分析を行う。
- ・図書館職員、ブックトークボランティアによるブックトーク※を実施する。
- ・学校図書室担当者等への研修を実施する。
- ・ブックトークボランティアの養成講座、レベルアップ講座を実施する。

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・子ども読書支援パック貸出事業用資料の充実を図る。
- ・子ども読書支援パック等による、地域施設・ボランティア等に対する資料や情報の提供支援を強化する。
- ・職員やボランティアに対する研修・講座を実施する。
- ・ボランティアに活動の場を提供し、その拡大を図る。
- ・文庫活動支援のための貸出資料の充実を図る。
- ・文庫活動支援としての資料選定のための定期的な情報提供を行う。
- ・地域施設やボランティアとの連携、協働による子ども読書推進のための行事を実施する。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・春・秋の子ども読書フェスティバルを活用した、子どもの年齢に応じたおすすめ資料やテーマ別資料の企画展示による家庭・地域への情報の提供等を行う。(全館での取り組み)
- ・園児等を通じた各家庭への図書館PRパンフ等の配布を行う。
- ・子育て支援施設のびすく泉中央と連携した事業の実施により利用の拡大を図る。

平成25年度実施状況

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・パッケージ貸出、学校貸出を継続して実施した。
 パッケージ貸出利用校 70校(平成24年度 79校) 延べ貸出回数 119回(平成24年度 110回)
 学校貸出校 316校(平成24年度 275校) 貸出冊数 15,027冊(平成24年度 14,424冊)
- ・公共図書館利用学習への支援を継続して実施した。
 図書館見学、調べ学習 受入校 61校(平成24年度 30校)
- ・図書館発行物(子どもの本の案内等)により学校への情報提供を行った。
- ・市立小学校に除籍済資料を無償譲渡した。
 譲渡先 20校 譲渡冊数 2,279冊(平成24年度 25校 2,005冊)
- ・学校連携事業の利用状況調査を実施した。
- ・図書館職員によるブックトークを継続して実施した。
 利用校 142校(平成24年度 146校)
- ・ブックトークボランティアによるブックトークを継続して実施した。
 利用校 24校(平成24年度 21校)
- ・学校図書室担当者等向けの研修へ図書館職員を派遣した。
 派遣件数 5件(平成24年度 6件)
- ・ブックトークボランティアの養成講座、レベルアップ講座を実施した。
 実施件数 2件(平成24年度 2件)

平成25年度実施状況(続き)

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・「子ども読書支援パック」の貸出と資料の充実を図った。(再掲)
平成25年度貸出件数(ボランティア等) 187件(平成24年度 138件)
- ・職員やボランティアに対する読み聞かせやストーリーテリング※など、子どもの読書に関する研修・講座を実施した。
平成25年度実施件数 14件 参加者数 298人(平成24年度 13件 339人)
- ・ボランティアの協力を得ながらおはなし会を積極的に実施するとともに、各種ボランティア団体の活動情報を広く紹介した。
- ・家庭文庫、地域文庫※の希望等を聞き取り、文庫貸出用資料の充実を図った。
- ・文庫活動を支援するため、文庫の会の勉強会でブックトークの手法や本の情報提供を行い、新刊案内を配布した。
- ・地域の児童館や市民センターと連携し、各種事業に出向いておはなし会を実施したり、社会教育施設への展示用資料の提供等を行った。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・図書館全館において春・秋の子ども読書フェスティバルを開催し、子どもが本に親しむための働きかけを行うとともに、おすすめ本の企画展示や児童文学者講演会を通して、家庭・地域への情報の提供を行った。
- ・図書館見学等の来館時に、園児や児童を通じて各家庭へ図書館のおはなし会の案内などPRパンフレットを配布した。
- ・子育て支援施設のびすくと連携したおはなし会の実施や、子育て支援通信の配布など、利用拡大に向けた取り組みを行った。
のびすくでのおはなし会実施回数 7回 参加者数 358人(平成24年度 7回 311人)
- ・地域の保育園や幼稚園が園外保育で来館する際に、希望に応じて臨時おはなし会を実施した。

実施効果等

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・学校への特別貸出や各種研修の開催を通して、本を活用した学びの機会を提供できた。
- ・ブックトークを実施した学校では、子どもが紹介された本に興味を示すなど子どもの読書活動推進の一助になっている。

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・地域施設やボランティアに対する「子ども読書支援パック」の貸出等により、図書館を利用する機会の少ない子どもたちに対しても、より広く、本に親しむ機会を提供することができた。
- ・ボランティアとの協働により、おはなし会の回数を増やすなど、子どもたちが本に触れる機会を増やすことができた。
- ・各種ボランティアの活動情報を広く紹介したことにより、各ボランティア団体がお互いに情報を共有することができた。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・図書館全館で子ども読書フェスティバルを開催したことで、全市的に子どもが本に親しむための取り組みを行うことができた。
- ・子供図書室において、園児や児童の図書館見学時に、臨時おはなし会を開催したりパンフレットを配布することにより、園児や児童を通じた各家庭への図書館のPRができ、利用の拡大につながった。

課題・改善策等

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・より多くの子どもたちが読書に親しめるよう、学校貸出資料の精選やブックトークボランティアの養成とスキルアップなど多面的に事業の質の向上を図っていくとともに、事業の周知に努める。

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・各種ボランティアの養成とスキルアップのための研修の場の提供に取り組むとともに、ボランティアの活動情報の発信と相互交流を促進し、活動の活性化に向けて支援していく。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・子どもの読書活動を推進するため実施している各種事業や取組みについて、子育て支援施設等関係機関と協力しながら各家庭への周知等を図り、より効果的に進めていく。

仙台市図書館協議会の意見

【学校との連携の強化、協働による事業の充実】

- ・子どもの読書活動を推進するため、学校と情報を交換するなど学校連携を深めていただきたい。
- ・職場体験学習の受け入れなど、自分づくり教育への図書館の関わりについて市民に積極的に情報発信していただきたい。

方向性 4 自らの変革を進める図書館**施策 (1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います****平成25年度事業概要****【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】**

- ・優れた蔵書構成を維持している公共図書館の具体的な選書方法や留意点等についての他都市調査を行う。
- ・「仙台市図書館資料選定基準」「仙台市図書館資料取扱要項」の見直し・改定を行う。
- ・資料の保存に関する留意点について整理する。
- ・各地区館の書庫資料に係る除籍作業を計画的に実施する。

平成25年度実施状況**【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】**

- ・他都市の資料収集基準等や蔵書構成についての調査を行った。仙台市図書館資料取扱要項の改正を踏まえ、各図書館の資料の分担収集を進めた。
- ・各地区館の書庫資料の除籍作業を実施し、除籍資料の有効活用(市民センター等への譲渡)を行った。

実施効果等**【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】**

- ・分担収集により、資料の保存分野に特色を持たせた図書館づくりを進めることができ、図書館全体として効果的に資料の充実を図ることにつながった。また、各館の限られた資料収蔵スペースを有効に活用することができた。
- ・計画的な除籍作業により保存資料の収蔵スペースを確保することができた。

課題・改善策等**【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】**

- ・市民の課題解決や学習のために必要な資料を計画的に収集し、蔵書の充実を図るため、分担収集の推進や選書会議等による調整を行っていく。
- ・計画的な除籍作業を行い所蔵資料の整理を継続して行うとともに、除籍資料の有効活用を進める。

仙台市図書館協議会の意見**【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】**

- ・資料の収集にあたっては、選書会議等のほか市民のリクエストにも配慮し蔵書の充実を図っていただきたい。
- ・資料の除籍にあたっては、学校図書の実用などに配慮し有効活用を努めていただきたい。

施策 (2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます

平成25年度事業概要

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・行事開催等の記者発表を行う。
- ・区民まつり、文化センターまつり等に参加する。

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・図書館で活動するボランティアを対象とした研修を実施する。

平成25年度実施状況

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・行事開催等について、市政だよりやフリーペーパー等への掲載のほか記者発表を行った。
秋の子ども読書フェスティバルの案内、榴岡図書館開館30周年記念事業の案内など
- ・多様な機関や市民団体との連携、行事・事業への参加等により図書館サービスについて情報を発信した。
「フィンランドフェスティバル」に参加し、関連図書の展示、おはなし会、映画鑑賞会を実施（泉図書館）
宮城野区文化センター主催事業「震災復興交流事業」の一環として、県内でロケが行われた映画鑑賞会及びトークショーを実施（宮城野図書館）
若林区文化センター及び若林区中央市民センターと合同で、仙台七夕まつりにちなんだおはなし会と関連資料展示を実施（若林図書館）
太白区中央市民センター主催イベントに参加し、おはなし会や映画鑑賞会を実施（太白図書館）
「太白区文化センターまつり」に参加し、関連図書の情報を提供（太白図書館）
「宮城地区まつり」に参加し、ボランティアとの協働によるおはなし会を実施（広瀬図書館）
「みやぎの・まつり」に参加し、大学生サークルのボランティア協力によりビブリオバトル※、おはなし会等を実施（榴岡図書館）
「宮城野通・榴岡公園活性化委員会」主催の「ウインターパーティーin榴岡公園」に参加し、ワークショップ（オリジナルしおり作り）、おはなし会等を実施（榴岡図書館）

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・市民活動団体等との協働により「としょかん・メディアテークフェスティバル」を開催した。（市民図書館）
- ・デイジー（DAISY）資料制作ボランティア講座を開催し、活動中のボランティアを対象にスキルアップ研修を実施した。（宮城野図書館）
- ・若林図書館応援団（返架と本の修理ボランティア）との懇談会を開催し意見交換を行った。（若林図書館）
- ・対面朗読ボランティアスキルアップ講座を実施した。（太白図書館）
- ・ボランティア団体との協働による「おはなし会リレー」を実施した。（広瀬図書館）
- ・朗読ボランティア団体の協力により、大人向けの朗読会を実施した。（榴岡図書館）
- ・利用者を対象に「おすすめの本」についてのアンケートを実施し、アンケート結果の公表と利用者のおすすめの本を紹介した冊子「あなたのおすすめ本を教えてください」を発行した。（榴岡図書館）
- ・市民参加によりビブリオバトルを開催した。（市民図書館、泉図書館、榴岡図書館）

実施効果等

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・フリーペーパー等を活用して行事を広報したことで、行事参加者が増加した。
- ・市民対象の各イベントに積極的に参加することで、図書館サービス情報の発信につながった。

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・各種ボランティアを対象とした研修を実施したことによりボランティアのスキルアップが図られ、市民協働による事業の充実につながった。
- ・ボランティアとの協働事業実施にあたり、準備段階から積極的に連携したことで、図書館サービスや読書推進に関する情報を相互に共有することができ、市民が参画する読書推進事業の充実につながった。
- ・ボランティアの意見や提案を受けて図書館サービスの改善に活かすことができた。
- ・利用者のおすすめする本についての冊子を発行する事業により、利用者が直接的に参加する読書支援活動を展開することができた。
- ・ビブリオバトル開催後のアンケート調査では、図書館利用や読書について興味が湧いたとの意見が寄せられ図書館利用促進につながった。

課題・改善策等

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・図書館行事開催等の広報については、引き続き効果的な広報手段を検討していく。
- ・地域イベント等における図書館サービスの情報発信については、図書館の利用促進に効果的につながるような取り組みについて引き続き検討していく。

【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】

- ・引き続きボランティアの活動のレベルアップを図るため、研修を企画し実施する。
- ・ボランティアとの懇談会を実施するなど図書館職員とのコミュニケーションを図りながら、ボランティアの継続的活動につなげていく。

仙台市図書館協議会の意見

【図書館サービスの広報、図書館像の共有】

- ・図書館サービスの広報にあたっては、ダイジェスト版の作成など市民に分かりやすく伝わるよう工夫していただきたい。
- ・大人が参画する読書活動についての広報を行い、市民の読書活動の充実を図っていただきたい。

施策 (3) 図書館資源を適正に配分し有効に活用します

平成25年度事業概要

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を踏まえた業務の見直し・効率化への取組みを行う。
- ・指定管理者制度の地区館への導入に関する検討結果について図書館協議会へ報告する。

【ICタグ※の計画的な導入】

- ・他都市の状況等を調査する。

平成25年度実施状況

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」により事業の効果及び課題等を確認するとともに、事業の充実に向けた取組みを図書館事業計画に反映した。
- ・若林図書館に指定管理者制度を平成27年4月から導入するという検討結果を図書館協議会へ報告した。

【ICタグの計画的な導入】

- ・政令指定都市の図書館に対して、ICタグの導入状況等について調査を行った。

実施効果等

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に基づく事業の充実に向けた取組みを行い、読書活動推進ボランティア養成事業等の充実が図られた。
- ・図書館協議会でのこれまでの議論・意見を踏まえた検討を行い、平成27年度より若林図書館へ指定管理者制度を導入することを図書館協議会に報告することができた。

【ICタグの計画的な導入】

- ・政令指定都市の図書館におけるICタグの導入状況、効果、課題等について把握することができた。

課題・改善策等

【システムやサービスのあり方の見直し】

- ・平成27年度からの若林図書館への指定管理者制度導入に向けて、事業者選定等の作業を計画的に進める。
- ・指定管理者制度導入館の的確な事業運営の確保のため、運営状況についてのモニタリング・評価を適切に行う。

【ICタグの計画的な導入】

- ・ICタグ導入の拡大については、費用対効果を踏まえて検討する。

仙台市図書館協議会の意見

【ICタグの計画的な導入】

- ・ICタグの導入については、費用対効果を踏まえながら拡大について検討していただきたい。

施策 (4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います

平成25年度事業概要

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・指定管理館(広瀬・榴岡)において利用者向けアンケート調査、利用者懇談会を実施する。
- ・他都市で実施または検討している評価方法について調査する。
- ・直営館において利用者向けアンケート調査、利用者懇談会を実施する。

平成25年度実施状況

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・政令指定都市の図書館に対して、図書館業務の評価について調査を行った。
- ・仙台市図書館振興計画に基づき実施した事業が、地域や市民にどのような効果をもたらしたのか図書館が点検・自己評価を行い、第三者による評価として仙台市図書館協議会から図書館の自己評価等に対する意見をもらい報告書としてまとめ市民に公表した。
- ・市民の意見や要望を把握し、市民に対してよりよいサービスが提供できる図書館経営を行うため、仙台市図書館全館において市民アンケート調査や利用者懇談会を実施した。
- ・直営館において窓口サービスアンケート調査を実施した。
- ・指定管理者制度導入館に対して管理運営に係るモニタリング・評価を実施し、ホームページで公表した。

実施効果等

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・仙台市図書館振興計画に基づき実施している事業について、第三者からの意見をもらうことにより事業の改善点を把握することができた。
- ・仙台市図書館全館で、利用者に対するアンケート調査を実施し、職員の接遇及び施設利用満足度等について、利用者の満足度や意見・提案及び課題等を把握できた。
- ・仙台市図書館全館で利用者懇談会を実施、図書館運営管理及び自主事業の実施内容等について、利用者から具体的な意見・要望等を聞くことができた。
- ・指定管理者制度導入館に対して管理運営に係るモニタリング・評価を実施したことにより、管理運営や業務改善の状況及び優れた取り組みなどを的確に把握できた。

課題・改善策等

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行っていくため、第三者による事業評価、利用者アンケート調査、利用者懇談会を引き続き行っていく。
- ・図書館を利用していない市民の意識調査についても今後検討していく。

仙台市図書館協議会の意見

【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】

- ・図書館利用者だけでなく図書館を利用していない人の意見を聞く方策について検討し実施していただきたい。

施策 (5) 図書館職員の資質の向上に努めます

平成25年度事業概要

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】

- ・障害者向けサービスに関する継続的・計画的な職員研修の実施や講習会に参加する。
- ・児童サービスに関する専門的知識を身につけるための職員研修の実施や研修会に参加する。

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・専門機関等の実施する研修会に参加する。

平成25年度実施状況

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】

- ・全職員を対象に障害者サービス研修を実施した。
- ・障害者サービス担当職員養成講座(日本図書館協会主催)において、公共図書館における障害者向けサービスに関する講義を受講した。
- ・児童サービスに関する専門的知識を身につけるための職員研修として、ブックトーク等の研修の実施や児童文学者講演会に参加した。

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・公共図書館の書誌検索システム間の連携効率化等に関する研修として、国立国会図書館主催による「国立国会図書館総合目録ネットワーク研修会」に参加した。
- ・図書館サービスのあり方に関する研修として、北日本図書館連盟主催による「北日本図書館大会」に参加した。
- ・中高生への読書推進を考える研修として、国際子ども図書館主催の「子ども読書連携フォーラム」に参加した。

実施効果等

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】

- ・障害者サービスに関する研修の実施により、仙台市図書館の現状と課題について職員間で共有することができた。
- ・児童サービスに関する研修の実施が職員のスキルアップにつながり、図書館でのおはなし会や学校でのブックトーク等を効果的に実施することができた。
- ・児童サービスに関する各種講座や児童文学者講演会に参加したことにより、職員のスキルアップ、職務意識の向上を図ることができた。

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・図書館地区別(北日本)研修への参加により、参加職員の図書館業務に対する意識が高まった。
- ・子ども読書連携フォーラムへの参加により他都市の現状や課題が把握でき、参加職員の専門性が高まった。

課題・改善策等

【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・より多くの職員が研修に参加できるよう、研修日時や業務スケジュールを考慮して職員研修を実施する。
- ・今後も宮城県図書館や国立国会図書館が実施する研修・講座等に積極的に参加し、職員の資質向上を図っていく。

仙台市図書館協議会の意見

【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- ・専門職としての職員の資質の向上を図っていただき、様々な図書館サービスの向上につなげていただきたい。

ICタグ

ICチップ(パッケージされた半導体集積回路)と小型アンテナを埋め込み、電波により情報の読み書きを行うことができる技術。容器等に入っている読み取りや書き換えも可能であるため、資料に貼付・入力することで、無断持ち出しの抑制や蔵書点検期間の短縮等が期待できる。

LLブック

知的障害や自閉症の人などに向けて、イラストや絵文字等を使って分かり易く読み易いように編集された本。LLとは、スウェーデン語のLätt Lästの略語で、「やさしく読める」という意味。

家庭文庫、地域文庫

自宅や地域の集会所等で、主に子ども向けに本の貸出や読み聞かせ等を行う活動。

学都仙台OPAC

学都仙台OPAC:学都コンソーシアム(大学等の加盟校同士や、加盟校と市民・企業・行政等との協業を推進する機関)加盟校等の蔵書目録を同時に検索できるもの。

OPAC(Online Public Access Catalog)とは、図書館のオンライン蔵書目録のこと。

学校貸出

小・中学校向けに、教科指導等で活用できる本などを100冊まで貸出すること。

国立国会図書館総合目録ネットワーク

国立国会図書館による、県域を越えた公共図書館の和図書の総合目録ネットワーク。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステム

国立国会図書館が総務省と協力して、国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステムを構築したものの。国立国会図書館東日本アーカイブは関連機関と連携して震災の記録等を分担収拾・保存し、国内外に発信することを目的としている。愛称は「ひなぎく」。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が、全国の公共図書館・大学図書館・専門図書館等と協同で構築しているデータベース。一般の方々の情報探索、図書館員のレファレンス業務に役立つような情報を参加館が日々登録・更新・蓄積している。

国立情報学研究所による目録所在情報サービス

国立情報学研究所によるサービスで、参加する図書館が所蔵する資料の書誌情報と所在情報をオンラインでデータベース化し、所在情報データベースを利用して、それぞれの図書館が自館で所蔵していない資料を相互に提供するサービス。

子ども読書支援パック

子供読書活動の推進に関わる活動を行っている施設、団体、個人向けに貸し出すため、絵本や紙芝居などを5～50点程度まとめたもの。

触る絵本

触素材をページに貼り付けるなどして絵を構成した絵本で、絵が触って分かるため、視覚障害者も健常者も楽しめるよう工夫されたもの。

3.11震災文庫

仙台市民図書館では、東日本大震災に係る被災状況について後世に伝えるとともに、震災からの復興や生活再建を支援するため、「3.11文庫」として、関連する様々な資料を収集し、閲覧、貸出を行っている。

商用データベース

データベースとは、事典や新聞記事など大量のデータを集めて整理・統合し、検索などをしやすくしたもの。企業などが開発・販売し、インターネット等で提供されるものが商用データベースであり、制作者によって常に管理・更新され信頼性が高い。

ストーリーテリング

語り手が本を持たずに、言葉だけでお話を語ること。「素話」ともいう。

大活字本

一般に刊行されている図書の文字サイズでは読みにくい人のために、大きな活字で印刷された図書。

大活字文化普及協会

大活字本普及のための広報活動、弱視者(低視力者・高齢者)の図書館利用促進等に係る事業を実施している特定非営利法人。大活字文化普及協会へ会員登録することにより、大活字本を通常より低額で購入することができる。

デージー(DAISY)資料

視覚障害者や普通の印刷物を読むのが困難な人々のための、カセットに代わるデジタル録音図書。見出しからすぐに必要な情報が探せるなど、情報検索に優れている。

ハイブリッドレファレンスサービス

紙の図書資料のみではなく、電子資料やインターネット情報等、複数の手段で利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをするサービス。

パスファインダー

特定のトピックやテーマ(主題)に関する資料や情報を収集する際に、図書館が提供できる関連資料の探し方が一覧できる案内。

パッケージ貸出

小・中学校向けに、需要が高い資料(朝読書用パッケージ120冊、テーマ別パッケージ40冊)をまとめたパックを作り、申し込みに応じてパックごと貸出をすること。

ビブリオバトル

他の人に薦めたい本を紹介し合い、どの本が一番読みたくなったかを参加者が投票しチャンプ本を決める「知的書評合戦」といわれるイベントのこと。

ブックトーク

あるテーマに沿って、さまざまな種類の本を順序だてて紹介すること。子どもと本をむすびつけるのに効果的な手法のひとつ。

マルチメディアデージー(DAISY)

音声に合わせて、その部分の文字や画像が一緒に画面に表示されるデジタル録音図書。音声のみのデージー(DAISY)よりわかりやすい。

レファレンス

利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをすること。レファレンスサービスとも言う。

レフェラルサービス

利用者の要求するテーマに関する情報の情報源(人、機関等)を知らせるサービス。具体的には、他の図書館や類縁機関、専門機関や専門家へ問い合わせたり、紹介したりする。

ヤングアダルト

一般的には、子どもから大人への転換期にある13歳から19歳までの年齢層のこと。この年代の好みや心理に配慮した図書資料を展示しているコーナーをヤングアダルト(YA)コーナーという。

YA通信

「YA」はYoung Adultの略。ヤングアダルト向けの図書資料や行事を紹介したチラシのこと。